

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171700133
法人名	特定非営利活動法人 太良の里
事業所名	グループホーム 太良の里
訪問調査日	平成19年11月29日
評価確定日	平成20年2月4日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171700133
法人名	特定非営利活動法人 太良の里
事業所名	グループホーム 太良の里
所在地	藤津郡太良町大字系岐2491番地1 (電話)0954-67-2858

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.1 人

(2)建物概要

建物構造	木造(一部鉄骨)平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	太良町立太良病院 医療法人田代医院 西野歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに隣接して梅・柿・さくらんぼ・イチジク・みかんなどの果樹園や広大な野菜畑を所有し、季節の移ろいと収穫の喜びを五感で感じる事ができる。自家製の野菜の虫取りや漬物作り・果物のジャム作りなどは入居者の出番の多い共同作業で、入居者の能力を活かした支援が行われている。代表者は、毎食入居者と一緒に食事をする事としており、生活を共にして入居者の意向を把握することを心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果について管理者と職員で話し合い、検討を重ねサービスの改善に活かした。ホーム便りについては継続して検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	勉強会に活用したり運営推進会議にはかり、より質の高いサービス改善につなげる計画がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの実情や入居者の状況を報告しているが双方向の意見交換までには至っていない。今後委員構成の見直しや協議内容の充実を図るための検討がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や利用料の支払い時に、代表者は家族と話し合い情報交換することを心掛けている。出された意見などは職員会議で検討し、サービスの向上に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会して地域住民と日常的な付き合いをしている。毎年ホームで開催される音楽コンサートには子どもからお年寄りまで地域の方々が集っている。地域の祭りには入居者も参画し、地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から地域で暮らす事を意識し、地域と共に生活することを理念とし、「ゆっくりと、自分らしく、そして共に生きる」ということをあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務開始時や毎月のミーティング時に理念の確認を行い、理念の共有に努めている。ホーム全体に流れる和やかな雰囲気から理念が実践されていることが窺える。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会して地域住民と日常的な付き合いをしており、回覧板も回ってくる。年に1~2回ホームで開催する音楽コンサートは子どもからお年寄りまで地域の方々が集い、楽しい行事となっている。また地域の祭りに入居者が参画するなど地元との双方向の交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については話し合いがもたれ、要改善点などの検討を重ねサービスの改善に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民・行政職員・利用者家族からなり、議事録他関係書類が整備されている。運営推進会議で出された意見は職員会議において検討され、より質の高いサービスの向上に取り組んでいる。	○	運営推進会議の一層の充実により、報告や情報交換にとどまらない、委員の参加意欲につながる様な双方向の会議になることを期待したい。評価の取り組みや評価後の改善への取り組みについて委員から意見を聞くなど、サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者はホーム開設当初から行政担当者と密に連絡を取り合い事業所の考えや実態を伝え、相談できる関係作りに努めている。運営推進会議に町の担当者も参加しており、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	代表者は家族の面会時に必ず声を掛け話をする心を心掛けている。利用料金は持参が原則で、支払い時に入居者の日常の様子や健康状態を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口及びその手順を明記し、家族に説明している。玄関受付に「希望の声」用紙も置き、家族が意見を表せる機会を設けている。出された意見などは職員会議で検討し、サービスの向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑える努力をしている。異動がある時は入居者に情報を伝えて説明するなど、なじみの関係を重視し混乱を防ぐような配慮を心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員研修の重要性を認識しており、できる限り研修に参加できるよう支援している。研修内容はミーティングで発表され、日々の業務に活かされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、スポーツや行事を通じた地域の同業者との交流の機会を多く持ち、情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらったり、職員が病院や自宅を訪問し顔なじみの関係をつくりながら入居できる支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物や料理・おやつ作りなど、入居者と職員が共に作業している。人生の先輩として入居者から教えられる事もあり、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に家族や本人と十分に話し合い、希望や意向の把握に努めている。運営者は毎食入居者と一緒に食事し、日々の生活の中から思いを汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族と十分話し合い具体的な介護計画が立てられている。日常のケアの中で変化があればその都度会議にかけ、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しが行われている。状態の変化があった時はその時点で家族に連絡がとられ、話し合いが持たれて介護計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に応じて外泊などの支援も行われている。散歩や買物、戸外での食事など入居者の希望に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続を支援し、安心して医療を受けられるような体制ができている。協力医と主治医、家族・事業所が相談し、より良い医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針は確立されていない。家族とも話し合いは持たれていない。	○	本人、家族、かかりつけ医そして事業所側の考え方や意向がずれたまま重度化の時期を迎えることのないよう、重度化や終末期についての関係者全体の方針の統一を図っていけるよう運営方針の確立と早朝並びに状況の変化のたびに関係者が話し合っていけるような取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については契約書に明記され、職員教育もされている。管理者や職員の入居者に接する様子から入居者の尊厳を大切にしている事が窺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは緩やかで入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。ホームに隣接している果樹園や遊歩道での昼食・お茶会は季節を肌で感じる事ができ入居者の楽しみにもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族一緒に食事をとる大切さを理解し、職員と入居者は同じ食事を楽しく食べている。下ごしらえや調理、配膳や片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。料理の味見をされる入居者もいて楽しい食事支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	望まれる入居者は毎日の入浴が可能であり、ゆっくり入浴を楽しめる支援がされている。入浴を拒む入居者には職員が優しい言葉掛けをして入浴を促している。入浴日が分かる様に入浴札が用意され混乱を防ぐ工夫がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や生け花、果樹園や野菜畑の手入れや収穫、洗濯物たたみや漬物・ジャムづくりなど入居者の生活歴を活かした役割や楽しみごとがある。ストーリーを考えて人形を作る入居者もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や外出は時間の許す限り支援している。天気の良い日は隣接の果樹園や野菜畑、遊歩道の散歩など四季折々の景色を楽しみながらの外出支援がされている。雨天の場合も広いデッキで楽しむ事ができ、入居者の希望に添って戸外で過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみで日中は施錠していないがセンサーが設置されている。庭や駐車場、道路はホーム内から見通しが利き入居者の安全を見守る体制ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回の消防との合同訓練と年2回の職員訓練が実施されている。隣が代表者の自宅であり、全職員も数分で駆けつける体制ができています。	○	職員だけでの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や地元消防団などの参加や協力を得た避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認は毎食毎に行われ、栄養士のアドバイスも受けており栄養バランスの把握はできている。管理者はミーティングで水分摂取をすすめる様に話している。居室にペットボトルを置いたり自家製のジュースを用意するなど水分確保の支援も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間などホーム内は花壇で摘まれた季節の花で飾られ入居者の目を楽しませている。廊下や居間などホーム内やウッドデッキ、庭には椅子やテーブル・ソファなど置かれ入居者は気に入った場所で寛ぐ事ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は何でも持ち込み可能である。写真やカレンダー、手芸品などで飾られ生活感が感じられる居室となっている。位牌やテレビを持参されている入居者もおられる。		